REGISTERED ORGANIZATION
No.0430-ISO9001
ISO9001認証取得

molten®

INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



- ■ 日本リーグ唯一の公式試合球
- ■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

公認指導者養成について



（財）日本ハンドボール協会参事・指導委員会委員長　笹倉 清則

昭和52年度に初めて、前指導委員長の大西氏（現専務理事）が高校、大学、実業団等の指導者を集め、代々木の青少年センターで、文部省公認上級コーチ養成会が開催された。当時は、当然初めての公認コーチ養成講習会のため、講習会の講師という方もおらず、この時間は受講生の中のどなたかが講師を担当され、次は他の受講生の中のどなたかというような形で開催されました。

この初めての講習会から約30年を経て、2年に一度のペースで講習会を開催し、現在全国でハンドボール競技における公認指導者の数は、1,035名（平成18年2月現在）に達しております。幸いにも私は、第1回目からすべての講習会に関わることが出来、これまでの講習会の経緯や発展を間近で観ることが出来、合わせて自分自身多くのことを学ぶことが出来ました。

この間に公認指導者資格も、平成17年に文部省の公認から日本体育協会公認と形を変え、それに合わせて17年度より新しいカリキュラムによりスタートしております。日本体育協会では現在国体の代表監督の有資格制度を推進しております。ハンドボール協会では、平成8年度の指導委員会の会議で「2007年の国体において各代表監督は公的資格保有者であること」を決定し、これまで計画的に中央でのコーチ（旧C級コーチ）・上級コーチ（旧B級コーチ）の養成講習会、そして毎年各県でのスポーツ指導員の養成講習会を開催してきました。そして本年は最後の年となり、全国で14県のスポーツ指導員の養成講習会が予定されております。これによって来年度からの国体において監督すべてが有資格者であるという規定を完全実施できるようになりました。これまで受講された多くの方々、そして運営にあたられた数多くの方々のご理解とご協力に改めて感謝しております。また、中央そしてブロック、各県の指導委員の方々のご協力にも深く感謝しております。

どちらかと言えばこれまでは、この2007年の国体の完全実施に向け、有資格者を増やすことに追われていたという事も事実ですが、昨今いろいろなスポーツにおいて、また教育の場において指導者の質を問われる事件やそれに関する報道がテレビ・マスコミに取り上げられております。

従って、今後の講習会では指導者の資質の向上を目指す講習会並びに研修会を開催し、常に指導者に対して新しい刺激を与え、勉強する姿勢を持つ指導者の育成が我々に求められていると思っております。

また、日本のハンドボールの競技力向上を考えた場合に、将来的な展望、そして世界レベルに照準を合わせた一貫指導と言うことを考えれば、U－12、U－16、U－18、ジュニア、シニア各レベルにおける統一した考えの基での計画的な指導を発展させていける指導システムも必要と考えられ、合わせてそれを担当できる指導者の育成をも必要とされていると思っております。

これまでを、一つのステップとして、これからを上記2つの今後求められる指導者を念頭に置き微力ではありますが、指導者養成を進めようと思っております。ますますの皆様のご協力とご理解をよろしくお願いいたします。

第35回 全国中学校大会

大会実行委員会の声

関わった人たちに生涯の思い出に残る大会に

高松市実行委員会事務局長　多田 宣行

■視察から開催まで

平成18年度全国中学校体育大会・第35回全国中学校ハンドボール大会を、香川県高松市において8月17日（木）から8月20日（日）までの4日間開催しました。全国9ブロックを代表する男女各19チームに、開催地代表男女1チーム、合計40チームをお迎えしました。

平成16年度千葉大会、平成17年度豊橋大会を香川県中学校体育連盟ハンドボール競技専門部・香川県ハンドボール協会のメンバーで視察し、平成17年5月に準備委員会、同年7月に実行委員会を設立し、大会開催に向け準備を進めてきました。香川県での開催は、平成2年の第19回大会以来16年ぶりの開催となり、当時の運営に携わった関係者も少なくなり運営面での不安がありましたが、日本中学校体育連盟・日本ハンドボール協会のご指導ご協力をいただき、滞りなく運営できたことに対し、心から感謝申し上げます。

高松市実行委員会では、本大会を契機に、スポーツを通して豊かな心と魅力ある郷土づくりを目指すとともに、本市のすばらしさを全国にアピールすることを目的とし、総力を挙げて取り組みました。中学校の教員はもとより香川県・香川県教育委員会・高松市教育委員会・香川県ハンドボール協会・香川県中学校体育連盟・高松市中学校体育連盟・関係団体等のご支援を得ながら、大会の成功に向け一致団結し開会式を迎えました。

開会式の前々日に台風10号の接近が予想され、選手・役員が来県できない場合や、大会そのものの実施について大変心配しましたが、幸い台風は前日に進路を変え事なきを得ました。昨年のような、渇水もなく、無事開会できたことを関係者全員で喜び合いました。

■大会初の3会場での開催

大会運営面での最大の課題は、競技会場が3会場に分かれることでした。香川県内には、ハンドボールのコートが2面とれる体育館がなく、やむを得ず3会場の開催となり、競技役員の分散・会場の移動・経費の増大（会場使用料・冷房代）など多くの問題を抱えた大会になりました。3会場開催はおそらく大会初ではなかったでしょうか。

ただ、運営に携わる役員・競技役員は、3会場に分かれることで危機感を持ち、それぞれが責任を持って綿密なる計画と、人員の配置を考え、生徒役員にも十分な指導して大会に臨めたことが成功の鍵でした。もちろん、全国大会を毎年陰で支えていただいている、競技部長の佐々木先生をはじめとする各ブロック長の先生方のご助言・ご指導、全国各地から審判員としてすばらしいジャッジをしていただいた16名の審判団の力をお借りできたことが、3会場開催のハンディキャップを克服できた大きな要因でした。

■大会開催と今後の課題

この日のために毎日厳しい練習を重ね、大会出場を果たした3年生にとっては、生涯の思い出に残る最後の大会です。一試合一試合にかける選手の思いがひしひしと伝わってきます。1点を争う白熱した決勝戦で、みごと大会2連覇を成し遂げた東京都東久留米西中学校（女子）、個々のすばらしい身体能力を駆使し、観客を魅了した男子優勝の沖縄県神森中学校、両校の栄誉をたたえます。

選手の皆さんには悔いの残らないよう、持てる力を十分に発揮して納得のいく結果を出してもらえるよう、実行委員会としても最善を尽くしたつもりですが、ご迷惑をおかけしたり、不便を感じさせたことが多々あると思います。3会場の条件の違い・練習会場の不便さ・宿泊施設と会場への移動・駐車場の問題など今後の課題として残りました。

末筆ではありますが、今大会を運営する上でお世話になった大会関係者、選手・監督の皆様、そして遠方より応援に駆けつけていただいた学校関係者・保護者の皆様に、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



男子は浦添市立神森中学校（沖縄県）
女子は東久留米市立西中学校（東京都）が優勝

女子優勝チームの声

目標を持って前進！！



東京都東久留米市立西中学校ハンドボール部監督　尾石 智洋



写真提供：スポーツイベント社

振り返ると、まず思い浮かぶことが、春の全国大会の悔しさを胸に日々の練習に励んできたことです。そこで、新年度に入り、もう一度、基礎。基本を見直しました。休日のまとまった練習時間の中だけでは定着しないことを改めて感じていました。平日の短い練習時間を有意義に練習できるか、毎日根気よく練習できるか、生徒達はこれまで以上に真剣に集中して練習してくれたと思います。私も校務に追われながらも、周りの先生方にサポートしていただき、練習に集中することが出来ました。漠然とした目標ではなく、具体的な目標を持って生活し練習する大切さを感じました。

そんな取り組みをしてきて、都大会・関東大会と順調のように見ていた方もいらしたようですが、なかなか、簡単にはいきませんでした。怪我にも耐え精神的にも追いつめられました。しかし、その中で生徒達はそれぞれ頑張ってくれました。

全国大会の試合を振り返ると、１回戦は岩国中と対決、キーパー中心にすばらしいDF力で、ペースをなかなかつかめませんでした。２回戦は春の準優勝校鶴城中。速いテンポでの攻撃に苦戦。準決勝、地元香東中にも粘り強いOF・DFに全国大会の怖さを改めて感じました。それぞれ、すばらしいチームと試合させていただき、その度に、チームを成長させていただきました。

そして、決勝戦は春に大敗した下津井中。自分たちの作った戦術が通用するのか、チャレンジでき、楽しみでした。前半は負けて折り返し、しかし、最後まで自分たちを信じることが出来、あせらず頑張ることができました。チーム全員が一丸となり、前向きに試合に向かってくれて、本当に嬉しかったです。２連覇したという喜びもありましたが、目標にしてきたチームに勝てたことに充実感を感じました。

ここまで来られたのは、子供を愛し応援し続け、私の指導方針を認め続けて下さった保護者の皆さんのおかげだと思っています。また、今年、一緒に関東大会に出場できた恩師の田中先生や武末先生、灘先生をはじめとする、東京都のハンドボール関係者の支えやご指導があったからだと思います。そして、高松市の大会運営にも感謝致します。提供して頂いた、讃岐うどんはおいしかったです。

最後に、私事ですが、この秋、第３子が出産予定です。家庭にも支えられ、自分の好きなハンドボールが出来、自分は幸せ者だと思います。こらからも変わらず楽しく・厳しく、ハンドボールを教えていきたいと思っています。ありがとうございました。



写真提供：スポーツイベント社

戦評

【男 子】

▼準決勝

神森（沖縄） 37（13-11, 24-12）23 松園（岩手）

［戦評］前半は松園が③菊地のサイドシュートで先制。神森もすぐさま⑭又吉のカットインシュートで取り返す。その後は、神森が主導権を握り、⑬上里のスカイプレーが飛び出すなど一気に押し切るかに思われたが、ここから松園が必死で粘り、2点差まで詰め寄って終了。後半に入ると神森が⑭又吉のナイスパス②通事のポストプレー① GK 山里のナイスセーブなどで調子に乗り、序盤で勝負を確定した。その後もプレスディフェンスから押しまくり圧倒的な力を見せ付けた。松園も最後まであきらめず⑦佐々木らが速攻を出して東北代表の意地を見せつけた。前半途中に⑧添田らが負傷するアクシデントがあり残念だが、お互いに真剣にプレーする姿に観客から惜しみない拍手がおくられた。

氷見北部（富山）28（14-11, 14-9）23 けやき台（茨城）

［戦評］開始15秒で氷見北部⑦高木がサイドシュートを決めれば、その15秒後、けやき台も⑥山本のサイドシュートで取り返す。16分過ぎにけやき台が退場者を出したところで一気に突き放しにかかる氷見北部だったが、シュートミス、パスミスなどで逆に2点を取られて9－8の1点差となる。だが、③大橋、⑤稲積のブラインドシュートなどで得点をあげ、氷見北部が14－11の3点リードで前半終了。後半11分過ぎ、けやき台は相手の攻撃のリズムを崩すべく、⑤稲積にマンツーマンDFをひいたが、5人で守るため、スペースが広がり、⑨尾越のサイドシュートが数本決まった。残り5分で5点差を何とか縮めようとするけやき台だが、氷見北部も必死のDFで得点を許さず、結局、28－20と8点差をつけて、前年度覇者のけやき台を振り切り、5年ぶりとなる決勝へと駒を進めた。

▼決勝

神森 31（12-14, 19-14）28 氷見北部

［戦評］男子決勝は、5年ぶり2度目の優勝を狙う氷見北部と、3年ぶり3度目の優勝を狙う神森との対戦となった。前半氷見北部からのスローオフで試合開始。立ち上がり氷見北部は⑤稲積のカットインで先制。対する神森は⑬上里のミドルで取り返すなど、スピーディな流れでスタートした。5分過ぎまでは4－4の同点であった。中盤は両チームミスが続く展開となるが、3点差をつけられた氷見北部は、⑤稲積が踏ん張りチームを盛り立てる。21分過ぎ氷見北部④指崎のカットインで同点に追いつき、その勢いで2点差をつけて前半を終了する。後半、両チームミスの多い立ち上がりだったが、神森②通事のポストシュートが2本決まり、4分過ぎに同点とする。その後、10分過ぎまで一進一退の展開であったが、神森のDFの動きは衰えず、徐々に氷見北部の攻撃のリズムを崩し、パスカットなどからの速攻で、得点を重ねていき、14分過ぎには5点差とする。しかし、氷見北部も後半DFからの速攻で攻めるが、神森のアグレッシブなDFは衰えず、31－28で優勝を手にした。氷見北部の堅い0－6DFを高い個人技で切り崩し、相手のパスコースを読んだプレスDFを最後まで集中力を切らさず続けた神森は素晴らしかった。また最後まで全力で戦った氷見北部のファイティングスピリットにも感動させられる試合であった。

【女 子】

▼準決勝

東久留米西（東京） 23（11-9, 12-9）18 香東（香川）

［戦評］前半は、ポストをうまく使う東久留米西が④松村、⑥角屋のポストシュートなどで常に先手をとる。対する香東も東久留米西②千葉の2度の退場を活かし②藤井のミドル、⑥中川の速攻などで逆転する。しかし、前半終了間際、東久留米西③笠木の2本のミドルシュートが決まり、前



男子優勝の神森中学校　写真提供：スポーツイベント社

半は、11 － 9 と東久留米西リードで折り返した。後半に入り、7 分に香東が④長尾の速攻で 13 － 13 の同点に追いつくなど粘りを見せるが、東久留米西は④松村⑦足立のポストなどで 3 連取し、大きく流れを引き寄せる。結局、最後まで見事なポストプレイを見せた東久留米西が 23 － 18 で勝利した。香東も大声援を受け、最後まで精一杯のプレイを見せ、健闘が光った。

下津井（岡山） 23（9-4，14-7）11 培良（京都）

［戦評］両チームともよく動く DF で相手の攻撃を防ぐが、ともに速攻で得点できない立ち上がりとなる。下津井の中央に厚い DF に対し、培良は⑮笠原のロングシュートを試みるがゴールすることができず、逆に 5 分過ぎに下津井⑤角南果帆のカットインでようやく初ゴール。その後も下津井の DF が培良に中央からのシュートを許さず、②角南涼のカットインなどで得点を重ねていく。培良はサイドへのずらし攻撃で対抗していくが、ラインクロスのミスが目立ち、前半は 9 － 4 と下津井の 5 点差で折り返す。後半に入っても、下津井の DF は固く、培良②山田のサイドからのシュートで得点するものの、下津井は DF からの速攻を次々に決め、点差をどんどん広げていく。結局 23 － 11 で下津井の圧勝となったが、長身のプレーヤーが多い下津井に対して、体格面で不利と思われた培良の最後まで戦う姿勢に好感がもてる試合であった。

▼決勝

東久留米西 24（1-13，13-10）23 下津井

［戦評］中国第 1 代表の下津井と関東第 1 代表の東久留米西の対戦となったこの試合、春の選抜大会での決勝と同じカードとなった。春の優勝に引き続き頂点を狙う下津井、対する東久留米西は春の雪辱を果たして昨年からの連覇を果たしたいところである。下津井のスローオフで始まった前半、東久留米西が⑥角屋のポストシュートで先制すると下津井は⑪加陽のカットインに対する 7m スローで④角南唯が 1 点返す。その後東久留米西がポストプレーで加点するのに対し、下津井は②角南涼の速攻で得点していく。その後、下津井は東久留米西のポストに対するディフェンスを固めてきたのに対し、東久留米西は③笠木がロングシュートで得点し、下津井も⑦松本のサイドシュートやカットインなどで得点し、13 － 11 の 2 点差で下津井がリードして前半が終了。後半開始後東久留米西が②千葉のポストシュートで先に得点すると、下津井も速攻で応酬。しかし、東久留米西④松村が 2 点連取してついに 5 分過ぎに同点とし、GK ①三間のファインセーブもあり 6 分 50 秒に逆転。その後は一進一退の息づまる展開の攻防を繰り広げ、14 分 45 秒には下津井が再逆転。しかし、スピードある攻撃、しまったディフェンスは両チームとも続き、またも東久留米西が逆転して 2 点差までもっていく。20 分 42 秒に東久留米西に退場者がでて確実に逆転していた下津井であったが、集中力を切らさなかった東久留米西がよくしのぎ、結局 24 － 23 の 1 点差で東久留米西が勝利し、大会 2 連覇を果たした。試合終了まで目を離すことのできないゲーム展開をした下津井のプレーも見事であった。

■最終順位

〈男 子〉	優 勝	浦添市立神森中学校（沖縄県）
	準優勝	氷見市立北部中学校（富山県）
	3 位	守谷市立けやき台中学校（茨城県）
	3 位	盛岡市立松園中学校（岩手県）
〈女 子〉	優 勝	東久留米市立西中学校（東京都）
	準優勝	倉敷市立下津井中学校（岡山県）
	3 位	京田辺市立培良中学校（京都府）
	3 位	高松市立香東中学校（香川県）

■大会優秀選手

〈男 子〉	山里 盛隼（神森）	上里 健太（神森）
	又吉 裕喜（神森）	上野 真悟（氷見北部）
	稲津 翔平（氷見北部）	岩葉 照之（松園）
	中村 広生（けやき台）	
〈女 子〉	三間 悠加（東久留米西）	笠木 美希（東久留米西）
	松村 杏里（東久留米西）	角南 涼（下津井）
	加陽 生子（下津井）	藤井 友美子（香東）
	山田 惠美香（培良）	


男子優秀選手


女子優秀選手

第１回
女子ユース（U－18）世界選手権



選手団長のコメント

記念すべき第１回大会に参加して

（財）日本ハンドボール協会理事　**森安 昭雄**（全国高体連専門部委員長・岡山県立総社高校）

世界のレベルアップには若い世代からの強化が不可欠の判断から、IHFが今年よりユースの世界選手権を新設した。その予選である昨年６月、バンコクにてのアジアユース選手権では、韓国に次いで２位となり出場権を獲得。その後数回の強化練習会を通して、５名の入れ替えがあったものの、16名の選手が大阪インターハイ終了の翌日８月８日に関西空港から、カナダ・シャーブルックに向かった。途中デトロイト空港でテロ厳重警戒で乗り継ぎに失敗。さらにモントリオール空港では３個の荷物が行方不明など前途多難なスタートとなり、選手村シャーブルック大の学生寮到着は深夜となったが、空はきれいな満月であったことが印象的であった。

練習場の確保・練習相手・移動等の交渉に繁田ヘッドコーチ、Dr宮本が大変。選手はインターハイ疲れ、時差でコンディションづくりに懸命。「胸の日の丸に自覚と誇りを」「チームはひとつ、心もひとつ」「チャレンジ精神を忘れるな」など勝つことへの執念を繰り返し、アルゼンチンとも練習試合を実施。

各大陸代表12ケ国が参加した開会式では山上、作内と続く日本選手団の堂々の入場。６ケ国ずつ２組に分かれてのリーグ戦。そして順位決定戦方式。緊張感がチーム内に漂う。

初戦のスロベニア戦は幸先よいスタート。しかしシュートミスが重なり点差が開かず、逆転されてズルズル。２試合目のフランス戦は前半15分で逆転されたがよく辛抱。後半、相手退場時に点が取れず逆に失点を許すなど相手ペースに引き込まれての完敗。チーム全体に連敗のショック・焦りが漂う。情報不足を痛感。選手間の涙を流してのミーティング。それをフォローする繁田ヘッドコーチ。翌日３戦目のブラジル戦は後半14分で５点リード、逃げ切りかと思えば追いつかれ、残り１分で山上からのパスを石野が得点し、身体能力抜群のブラジルに歓喜の勝利。この「１勝」の重みは将来への大きな活力の基となるはず。４戦目のチュニジア戦は前日の１勝が次につながった展開。楠本コーチの指示に的確に反応。５戦目優勝候補のルーマニア戦は巧みな試合運びにも対応するが、やや力不足。経験を積めば……の感がした。７－８位決定戦のタイ戦は繁田・楠本ハンドが浸透し、全員得点で完勝の７位。

次回大会には順位をあげるとともに、欧州勢、韓国を破ってもらいたい。この記念すべき第１回大会を単なる想い出で終わらせず、この貴重な体験と多くの課題を次のカテゴリーへつなぐことの重要性。そして頑張った選手・役員と所属する学校関係者に感謝の気持ちをこめながら帰途についた。

最後にセミファイナルを吹いた池渕・檜崎ペアは、ナイス審判員として、IHF・各国から評価が高く話題になったことを付け加えたい。

ヘッドコーチのコメント

産みの苦しみ　―世界での１勝（対ブラジル戦）―

ヘッドコーチ　繁田 順子

やったあ!!

タイムアップの笛と同時に飛び上がり、抱き合い、まるで優勝したかのように大喜びする日本ユースチーム。2006年8月14日、夜10時21分。記念すべき大会１勝の瞬間であった。

初戦のスロベニア戦、２戦目のフランス戦と欧州勢に連敗。決してパワーと高さに屈したのではなく決めるべきところでシュートミス、守るべきところで押し込まれ、ずるずると後退。どうもしっくりいかない。歯車が食い違っている。予選リーグ２試合を消化し０勝２敗と黒星先行。残り３試合。明日のブラジル戦に勝たねば全敗も……。１勝もできずに帰国?!　いやな思いが脳裏をかすめる。日本のみんなに申し訳ない。勝ちたい！　皆思いは同じ。しかし、結集した力として伝わってこない。一人ひとりが“混成チーム”に遠慮し、もどかしさを感じている。チームが暗い。これでよいの？　これで終わるの？　選手から声があがった。声出せよ！　出してる!!　ミスするなよ！　一生懸命やってる!!　思いをぶつけ始めた。誰も遠慮しない。全身を震わせ涙で訴えた。わだかまりがとけ始めた。目が輝き始めた。明らかに何かが変わってきた。

後半28分、同点に追いつかれても諦めなかった。攻め続け、声を限りに守りきった。仲間を信じた。大きく成長した「単独チーム」がラスト40秒の決勝点を奪ったと言えよう。実に産みの苦しみを味わった世界での１勝であった。

顧みれば２年前の４月、新しいカテゴリーとしてスタートしたユース。当然視され、プレッシャーの中で勝ち得たアジア予選。その後の国内合宿やノルウェー遠征は、日の丸の重責を学ぶに絶好の場であった。日ごとに成長していく若者の姿にまぶしさを感じながら、間違いなく続くであろうジュニアやナショナルでの活躍に期待を込めてエールを送りたい。

最後になりましたが、貴重な機会をいただいた協会関係者や大切な選手を派遣くださった先生方、そしていつも暖かく見守り応援くださった多くの方々に誌面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



キャプテンのコメント

第１回世界ユース選手権を終えて

U－18日本代表キャプテン　山上　麻美（洛北高校）



第２戦　対フランス戦　入場する山上主将（No.5）と作内選手（No.13）

第一回女子世界ユースの大会で、私はキャプテンをさせて頂きました。

大会を通して、技術面や精神面、そして選抜チームの難しさなど多くのことを学ばせて頂きました。

カナダ入りするまでに、何回か合宿を繰り返して来ましたが、いつも課題となっていたのは、チーム内でのコミュニケーションでした。合宿では、外国人を想定し、実業団のチームの方や男子のチームと試合させて頂くなど、ほとんど試合中心の合宿でした。

選抜チームで合宿を重ねるといっても、自分の学校のチームのように毎日一緒に練習しているわけでもないし、各高校プレースタイルなども違ってきます。ですから自分のチーム以上に、細かくコミュニケーションをとらないとチームとしての一体感は生まれません。でも、私たちは自分の意志をなかなか相手に伝えることができないまま、不完全なまま大会入りすることになりました。

カナダ入りする時も、インターハイ直後の疲れが残る中、テロの関係で乗り継ぎが予定通りいかなかったり、時差や、食生活の違いなどにとまどうなど、慣れないことばかりでした。

そして迎えた１試合目のスロベニア戦、私たちは、この初めての世界大会で大きな壁にぶちあたりました。ヨーロッパ勢とはいえ、そこまで力の差がある相手ではなかったのですが相手のレベルが問題ではなく自分達自身の問題で失敗してしまいました。イージーミスからはじまり、ノーマークシュートを立て続けに何本も外して、自分たちで流れをくずした時にお互いに何も言い合うことができず、そのまま試合は終わってしまいました。

選抜チームだからこそ起こる問題に、大会入りして、いきなりぶつかったわけです。

監督の先生方に、アドバイスを頂き、その夜ミーティングで涙を流し、お互いに意志を伝えあうことができました。このミーティングで大きく１歩前に進むことができました。

２試合目のフランス戦、大差で負けてしまいましたが、３試合目のブラジル戦では、大きな１勝をあげることができました。

予選リーグ２勝３敗で、４位通過となり、７位、８位決定戦では、アジア大会でも戦ったタイとの試合でした。この試合では、自分たちの持ち味を最大限に発揮して、アジア大会の時以上の大差で勝つことができました。

結果７位という成績で大会を終えましたが、決して満足のいくような結果ではないし、悔しさが残るばかりです。でもこの世界大会を経験させて頂いて、負けることの悔しさ、勝つことの難しさだけでなく選抜チームの大きな壁や自分の未熟さ、いろいろな事を学ぶことができました。

私たちは、この世界大会で外国チームと戦うことで、技術、精神力、前進することができたと思います。そして何より、コミュニケーションの大切さを、それがうまくいった時の大きな喜びを知ることができました。だからこの貴重な経験をこれから生かし、さらに高いレベルを目指していきたいです。

また合宿などでお世話になった、実業団の方々、ご支援、ご声援頂いた多くの方に感謝しています。

ありがとうございました。



対ブラジル戦に臨む楠本コーチの指示にも力が入る。

■選手団名簿

	名前	所属
団長	森安　昭雄	(財) 日本ハンドボール協会
ヘッドコーチ	繁田　順子	(財) 日本ハンドボール協会
コーチ	楠本　繁生	(財) 日本ハンドボール協会
ドクター	宮本　和彦	熊本赤十字病院
トレーナー	木下　幸司	パンジョスポーツクリニック

ポジション	名前	所属	出身校
GK	亟々　知佳	夙川学院高校	大久保北中
GK	橋本　千里	高津高校	西中原中
GK	石田　光	高岡向陵高校	山室中
CP	林　志帆	夙川学院高校	川名中
CP	後藤　千渡世	洛北高校	大住中
CP	山上　麻美	洛北高校	住吉中
CP	山野　由美子	小松市立高校	浅野川中
CP	石野　実加子	氷見高校	氷見南部中
CP	鳥飼　翠	富岡東高校	富岡南中
CP	作内　杏那	高岡向陵高校	堀川中
CP	樽井　沙織	浦和実業高校	大増中
CP	戎野　満梨奈	四天王寺高校	住吉第一中
CP	高良　温子	那覇高校	神森中
CP	岡本　真季	四天王寺高校	上野芝中
CP	沢井　理絵	四天王寺高校	住吉第一中
CP	采野　絢香	洛北高校	培良中

■試合結果

【予選リーグ】

▼A組　1位　フランス（4勝1敗）
　　　2位　ルーマニア（4勝1敗）
　　　3位　スロベニア（3勝2敗）
　　　4位　日本（2勝3敗）
　　　5位　ブラジル（2勝3敗）
　　　6位　チュニジア（5敗）

▼B組　1位　デンマーク（4勝）
　　　2位　韓国（3勝1敗）
　　　3位　アルゼンチン（2勝2敗）
　　　4位　タイ（1勝3敗）
　　　5位　カナダ（4敗）

【9－10位決定戦】

ブラジル　45（20－5、25－5）10　カナダ

【7－8位決定戦】

日本　46（25－6、21－10）16　タイ

【5－6位決定戦】

スロベニア　22（12－9、10－7）16　アルゼンチン

【準決勝】

韓国　32（18－13、14－18）31　フランス

デンマーク 34（15－16、13－12、6－4）32 ルーマニア

【3位決定戦】

ルーマニア　30（13－22、17－6）28　フランス

【決勝】

デンマーク　36（17-19、19-14）33　韓国

■最終順位

1位　デンマーク
2位　韓国
3位　ルーマニア
4位　フランス
5位　スロベニア
6位　アルゼンチン
7位　日本
8位　タイ
9位　ブラジル
10位　カナダ
11位　チュニジア
12位　コートジボアール（棄権）

■戦評

【予選リーグ】

スロベニア　31（15－13、16－9）21　日本

［戦評］世界デビュー戦、開始1分30秒、山上のステップシュートが決まり、続けてセンター作内、ポストから後藤と、日本の3枚看板の連取で3－0と幸先よいスタートをきった。その後も石野のカットと続き、10分で6－3とリードする。しかし攻撃ミスからの逆速攻や手足の長いサイドシュートでつめ寄られ、20分で逆転され13－15で折り返す。後半の巻き返しが期待されるもイージーミスから連続7得点を奪われ、10分で16－24と大きくリードされる。相手の疲れを走りで追い上げたいところだか大事なところでシュートミスが続き、10点の大差で敗退した。

［得点者］石野・采野5、山上3、後藤・作内・沢井2、山野・鳥飼1

フランス　35（14－11、21－9）20　日本

［戦評］開始30秒、先制点を奪われるも3連取を含め10分で6－3とリード。変則4－2ディフェンスがうまく機能したが、13分・石野の退場の間にフリースローと速攻で4連続失点。15分で7－6と逆転された。ここでもディフェンスで粘り強く辛抱するも、フリースローで加点され11－14で折り返す。後半、山上のステップシュートや沢井の速攻でくいつくも、高い打点のフリースローには為す術もなかった。GK石田の再三のファインプレーで流れをつかみかけたが7mスローを含むノーマークミスや相手退場時に点が取れず逆に失点し、20－35の大差で敗れた。

［得点者］山上6、沢井4、石野3、後藤・作内2、樽井・戎野・采野1

日本　29（13－13、16－15）28　ブラジル

［戦評］早く1勝が欲しい両チームの対戦は最後まで1点を争う緊迫したゲームとなった。開始2点リードされ、4分30秒で早くも石野が退場。我慢の6分間。ようやく作内が

1点目をきめ、その後に山野のサイドと采野のポストと続く。相手退場をきっかけに16分まで5連続得点。しかしサイドと速攻で逆に連続失点を許し、13－13で後半へ。後半アグレッシブなディフェンスからミスを誘い、采野、沢井の速攻へつなげ、14分で20－15とリード。そのままの勢いで得点を重ねたいが、前半から感じていたレフェリーの「ずれ」にディフェンスが崩れ始める。守りきり、打ちとったかに見えたが戻されフリースロー。少しずつ詰め寄られ19分22－21の1点差で作内が3回目の退場で失格。ブラジルの7mスローで追いつかれる。ラスト10分間、一進一退のなか、29分シュートブロック後、山上が石野にパス。それを確実に決めてラスト守りきった。

［得点者］石野9、作内7、山上・沢井・采野3、樽井2、後藤・山野1

日本　34（15-11、19-11）22　チュニジア

［戦評］大会屈指の相手ヒッターを高い位置でアタックをかけ、オフェンスでは横の動きを多用し、ポストを活かす作戦を確認。好調・石野の速攻で先取点。采野もポスト好位置で得点に絡み、また相手退場時に加点する。25分で13－8とするも、相手エースに高い位置から打ち込まれ15－11で折り返す。後半も気を緩めることなく沢井、采野、石野の一線にパスがつながり、10分過ぎで25－15とリードを広げた。12分から山上、後藤、作内と退場が相次ぐが、5人ディフェンス時にも粘り強く守り、速攻で加点した。

［得点者］石野8、采野7、沢井5、山上・作内4、後藤・戎野3

ルーマニア　38（21－15、17－14）29　日本

［戦評］現在得点ランキング2位（4試合29点）のルーマニアのエースを強いマークでプレーさせないことを確認。しかし、ポストサイドにうまくスペースを攻められ10分6－10とリードされる。日本も作内のロングと石野のポストで応酬するが、13分、チームリーダーの山上が負傷退場し、オフェンスのリズムが崩れる。しかしここで後藤が調子を取り戻し、カットインと速攻で頑張り、15－21で折り返す。後半に入り、石野のポスト、5分に沢井の速攻、14分と16分に後藤がフォーメーションを決めるが、その間にも相手右



競技会場カナダ・シャーブルック市　レオポルドードロルスポーツパレス

エースに代わり左エースに高い打点から打ち込まれる。26分に采野－沢井のスカイが決まる。27分には采野－沢井－後藤のダブルスカイが決まり観衆をわかせるが、最後まで前半の得点差と大事なときのシュートミスが響いた。

［得点者］後藤7、采野・石野・作内5、沢井3、樽井2、山上・山野1

【7－8位決定戦】

日本　46（25－6、21－10）16　タイ

［戦評］予選グループを4位で終え、7－8位決定戦はBグループ4位のタイとなり、アジア勢の対戦となった。力の差はあるものの、主将・山上を欠き、又2ヶ月の長期合宿後の大会入りのタイに不覚をとらないよう気を引き締めてゲームに臨む。開始1分石野のポストの7mスローを作内が確実に決め、その後も石野、後藤の速攻で得点し、15分11－4とリードする。守っても後藤のプレスがうまく機能し、カットから速攻、GK橋本も2本の7mスローを阻止するなど、日本のペースでゲームを進め。25－6の大量リードで折り返す。後半も20秒采野のポスト、樽井のサイドで好スタート。山上に代わりスタメンで真ん中のディフェンスを任された戎野に崩れが見え、連続で7mスローをとられる。しかし山野が目のさめるようなロングを連発。鳥飼や岡本も持つ味を十分生かし、全員得点で46－16でゲームセットとなった。

［得点者］采野8、山野・石野6、林・作内5、樽井4、沢井・岡本3、後藤・戎野・鳥飼2

決定

第15回アジア競技大会ハンドボール競技全日本代表メンバー

大会期間：2006年12月1日～15日　場所：ドーハ（カタール）

男子

■スタッフ

	名　前	所　属
チームリーダー	蒲生　晴明	（財）日本ハンドボール協会
監督	Ivica Rimanic	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	Nemes Roland	（財）日本ハンドボール協会
トレーナー	赤尾　和彦	トレナーズフォーアスリート

■アディショナルオフィシャル

情報分析	小笠原　一生 齊藤　慎太郎

リマニッチ監督の初采配となる公式大会であり期待したい。5月から、強化合宿を重ね11月ジャパンカップを経て、クロアチア遠征で最終的に仕上げてドーハに乗り込むスケジュールを立てている。宮﨑（大崎電気）・門山（トヨタ車体）・富田（大同特殊鋼）など若い選手の台頭で、レギュラー争いが激化している。キャプテン中川（大崎電気）などベテランを交えて、韓国・中国をはじめクウェート・開催地カタールなど中東勢と激しい戦いを勝ち抜いていきたい。

■選手

		名　前	所　属	出身校
1	GK	坪根　敏宏	湧永製薬	福岡大学
2	GK	高木　尚	大同特殊鋼	日本体育大学
3	GK	志水　孝行	湧永製薬	大阪体育大学
4	CP	松林　克明	大同特殊鋼	日本体育大学
5	CP	豊田　賢治	大崎電気	国士舘大学
6	CP	前田　誠一	大崎電気	日本体育大学
7	CP	宮﨑　大輔	大崎電気	大分国際情報高校
8	CP	中川　善雄	大崎電気	中央大学
9	CP	永島　英明	大崎電気	大阪体育大学
10	CP	香川　将之	トヨタ車体	中部大学
11	CP	猪妻　正活	大崎電気	早稲田大学
12	CP	武田　享	大同特殊鋼	国士舘大学
13	CP	富田　恭介	大同特殊鋼	中部大学
14	CP	中畠　嘉之	トヨタ紡織九州	福岡大学
15	CP	東　慶一	湧永製薬	大阪体育大学
16	CP	門山　哲也	トヨタ車体	日本大学
補欠	CP	泉原　弘典	トヨタ紡織九州	大阪経済大学
補欠	CP	村上　秀行	トヨタ紡織九州	大阪経済大学
補欠	CP	中谷　哲也	ホンダ	中部大学
補欠	CP	末松　誠	大同特殊鋼	国士舘大学
補欠	CP	太田　芳文	大崎電気	日本体育大学

女子

■スタッフ

	名　前	所　属
チームリーダー	蒲生　晴明	（財）日本ハンドボール協会
監督	Bert Bower	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	藤本　元	（財）日本ハンドボール協会
トレーナー	倉田　忠司	(有)トータルヘルスコンディショニング

7月に行われたアジア選手権では、韓国には引き離されたが、中国と激戦の結果2点差で惜しくも敗れ、カザフスタンには快勝し、充分手応えを感じることができた。国内合宿を経た後11月ジャパンカップに臨み、直接ドーハに乗り込む。バウワー監督が信頼している田中美音子（ソニーセミコンダクタ九州）を中心に機動力を活かし、韓国・中国との激戦をものにしていきたい。

■選手

		名　前	所　属	出身校
1	GK	飛田　季実子	ソニーセミコンダクタ九州	大阪福島女子高校
2	GK	勝田　祥子	オムロン	武庫川女子大学
3	GK	田中　麻美	ゴッピンゲン（ドイツ）	大阪体育大学
4	CP	佐久川　ひとみ	オムロン	浦添高校
5	CP	坂元　智子	オムロン	夙川学院高校
6	CP	水野　恵子	オムロン	熊本国府高校
7	CP	小野澤　香理	北國銀行	国士舘大学
8	CP	田中　美音子	ソニーセミコンダクタ九州	四天王寺高校
9	CP	大前　典子	広島メイプルレッズ	四天王寺高校
10	CP	山田　永子	ベッケラゲッツ（ノルウェー）	筑波大学
11	CP	谷口　尚代	ドルトムント（ドイツ）	筑波大学
12	CP	早船　愛子	フォルスタブロ（デンマーク）	筑波大学
13	CP	金城　晶子	フランクフルタ（ドイツ）	武庫川女子大学
14	CP	小松　真理子	イェイダ（スペイン）	小松商業高校
15	CP	長野　かづさ	ソニーセミコンダクタ九州	桜花学園高校
16	CP	植垣　暁惠	大阪教育大学	宣真高校
補欠	CP	東濱　裕子	オムロン	陽明高校
補欠	CP	中村　尚美	北國銀行	武庫川女子大学
補欠	CP	上町　史織	北國銀行	国士舘大学
補欠	CP	田代　ひろみ	北國銀行	四天王寺高校
補欠	CP	浅井　友可里	ストルハマー（ノルウェー）	四天王寺高校

市原副会長がドーハアジア大会に日本選手団総監督として参加

日本ハンドボール協会市原副会長は、JOC常務理事としてもご活躍中ですが、第15回ドーハアジア大会日本選手団960名の総監督に就任されます。日本ハンドボール協会にとっても名誉なことであり、ご活躍が期待されます。

第41回全国高等専門学校体育大会
第33回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

米子高専が5年ぶり2回目の全国制覇







兵庫県ハンドボール協会理事長　**大原 康昇**

第33回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会が、8月5日、6日にグリーンアリーナ神戸で開催された。

全国各地の予選を勝ち抜いた12チームが、大会初日3チームごとの予選リーグ、2日目は各予選リーグ1位による決勝トーナメントが行なわれた。

予選リーグは前年度の覇者豊田高専（第1ブロック）、米子高専（第3ブロック）、大阪府立高専（第4ブロック）が安定した戦いで勝ち進み、混戦模様の第2ブロックは初出場の高松高専が抜け出し決勝トーナメントへ。

準決勝豊田 vs 高松は、試合巧者豊田が前半中盤より点差を広げ圧勝。米子 vs 大阪府立は米子が後半20分頃までリードを保っていたが、大阪府立が得意の速攻で徐々に点差を縮め、後半22分に同点として延長戦となり、5対2で米子が逃げ切った。

決勝戦豊田 vs 米子は、前半米子はサイド、ポスト、速攻と多彩なプレーで5点差とするが、後半立ち上がり豊田は米子のゲームメーカー佐伯をマンツーマンで守り、リズムを崩した米子を攻め徐々に点差を縮め、24分44秒に谷のシュートで同点とし延長戦かと思えたが、米子赤井がスローオフ後素早く右45度にカットインシュートを決め、劇的な幕切れで豊田高専の5連覇を阻止した。

試合結果は「スコアールーム」に掲載

表彰選手

谷本　昌弘（米子高専4年）	中村　大輔（豊田高専4年）
井口　元気（米子高専5年）	森本　一城（大阪府立高専5年）
西垣　浩介（米子高専5年）	管納　史也（高松高専4年）
筒井　友也（豊田高専5年）	

～夢を与えたいJHL～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

夏秋一本化が実現した兵庫国体だが、今年の大会は少しばかり趣が違った。高校野球（硬式）の大フィーバーぶりだ。“ハンカチ王子”こと早実の斎藤佑樹投手や駒大苫小牧の田中将大投手らの出場で、夏の甲子園に負けないほど沸騰した結果であった。

とくに高校生ドラフトの直後であったことも、フィーバーに輪をかけたともいえるだろう。

とにかくプロ野球を目指す高校生にとっては、ドラフトは「夢」である。指名された彼らが目標として口にするのは、プロで活躍する日本人プレーヤーたちである。また、かつては意中の球団として挙げていたのは巨人が大半だったが、いまや、そうした意識もかなり変化を遂げてきたように思える。地元への入団希望が増えてきたのは、長年プロ野球界が熱望してきた「地域密着」が次第に根付いてきたと言えるのだろう。

この地域密着は、むしろJリーグが先行していたはずである。しかし、地元のJクラブでプレーしたいという高校生は、あまり声が聞こえてこない。やはり、日本はまだまだ野球王国なのだろうか。

ではなぜ、こうした現象が起きるのであろうか。ひと口で言えば「夢」ではないだろうか。

スポーツが見る側=ファンに感動を与える要因は、いろいろあろう。技術の素晴らしさ、戦術の楽しさ、さらには戦略の面白さも挙げられるかも知れない。しかし、もうひとつ、日本人ファンには欠かせないものがあるようだ。その勝負にかけるひた向きさ、あるいは夢である。甲子園が多くのファンをひきつけるのも、そうした点がかなりのウエートを占めているといっていいだろう。

ハンドボール界で言えば、その対象はトッププレーヤーが一堂に会する日本リーグという場といってよかろう。

最近では日本人選手も、かなりの選手が海外に挑戦している。だが、まだその数は少ないし、受け入れ先の環境も厳しいものがあるようだ。もっと活動の場が増えれば、そうした点にも目が向けられるようになるだろう。

それはともかく、31回目を迎えた今回のリーグは、第3地域での戦いの場が多く用意されている。

滅多に目の前で観戦する機会に恵まれないファンにとっては、ありがたいし、うれしい限りである。またのない観戦の場であり、目の前で展開される激しい戦いに興奮させられることだろう。

だからこそ、そうしたチャンスには、少年少女たちに多くの夢を与えたいものである。「将来、ぜひ日本リーグでプレーしたい」思いを募らせることが重要なのだ。

豊かな土壌に蒔かれた種は、必ず大きな花を咲かせてくれるはずである。あこがれる選手になるための努力も大切だし、そうなるためのプレーも大切だ。また、絆を強める機会を持つことも当然だ。夢を与えれば、必ず次世代の夢づくりへとつながることは間違いあるまい。

第11回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

第62回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会

男女とも HC岡山(岡山県)が 3年連続3回目の優勝



地元・HC秋田5番 高橋宏季選手

ジャパンオープンハンドボールトーナメントを振り返って

秋田県ハンドボール協会理事長　高山 重雄

第11回目を迎えたジャパンオープンハンドボールトーナメントを、8月9日～12日（女子の部は11日まで）の日程で湯沢市（男子の部）、大仙市（女子の部）の両市を会場に開催させていただきました。

大会は、男女ともにHC岡山が3連覇という偉業を達成し幕を閉じましたが、まずもって遠路当地までお越しいただき、猛暑のなかご健闘いただいた男子32チーム、女子16チームの選手、関係者の皆様に深く敬意を表するとともに感謝申し上げます。

ご存知のとおり、両市は、来年10月の『秋田わか杉国体』ハンドボール競技の会場地となっておりますが、昭和36年の秋田国体を機に誕生した本県ハンドボール界の2大拠点として今日に至っており、ハンドボールとは非常に縁の深い所であります。この両市の多大なるご理解ご支援のもと、国体リハーサル大会としてこの大会を開催できましたことは、当協会としても非常に有難く意義深いものであり、両市及び関係各位に対し衷心より御礼申し上げます。

会場設営や選手輸送、開閉会式典においても国体本番を見据えた運営をしていただき、クラブチーム日本一を決定する全国大会としての体裁は十分確保できたのではないかと感じております。

競技運営の面においては、国体予行練習との位置付けではありましたが、元々小さな協会組織で、更には他の大会等との重なりもあり、競技役員の確保に非常に苦慮したところです。また、核となるスタッフ体制を確立することができず、準備業務においても決して順調に推移したと言える状況ではありませんでした。しかし、何とか滞りなく大会を終えることができたのも、日本協会を始めとした関係各位のご支援の賜物であり、協会一同安堵いたしておるところです。

多くの課題事項を再確認する大会となりましたが、当協会においては、良くも悪くも国体に向けたステップの大会とすることができました。今後、協会の組織強化等の課題事項を一つ一つクリアしながら、県内大会等においても競技役員、補助員の研修を行い、国体に向けた習熟度を高めて参りたいと考えております。

国体の開催に合わせ、秋田県並びに両市のご尽力により国体時使用するハンドボール正規コートの整備が順調に進められております。大仙市においては、既に完成し今大会も使用させていただきましたが、湯沢市では現在2つの体育館の改築工事が進められており、来年度早々には完了予定となっております。

また、大会直前の8月8～12日の日程で、全日本男子チームの強化合宿を湯沢市で行っていただき、多くの市民の皆様や子供たちにハンドボールのすばらしさとトップクラスのプレーに触れていただきました。

こうしたハード・ソフト両面における事業は、当協会においても大きな財産であり、国体を一過性の競技会として終わらせることなく、競技人口の拡大更には競技力向上の契機とし、ハンドボールを地域に強く根差したスポーツとして定着させたいものと考えております。

1年後に迫った国体開催に向け、いよいよラストスパートといった感もありますが、会場地実行委員会と連携し、全国から訪れる選手の皆さんが秋田の地で力の全てを出し切れるよう協会一丸となって大会準備に励んで参りたいと考えております。

最後に、今後も当協会に対するご支援ご協力をお願い申し上げ、大会を終えての所感といたします。

男子の部優勝チーム

ジャパンオープンハンドボールトーナメント３連覇

ＨＣ岡山（男子）監督　上野 幹彦



写真提供：スポーツイベント社

第11回ジャパンオープン秋田大会で３連覇を成し遂げることができました。ＨＣ岡山（男子）の５年間の結果をここで紹介します。

平成14年３月、「平成17年晴れの国岡山国体」に向けて全国に通用するチームを作るためにHC岡山を結成しました。当時のメンバーは県外３名（所、林、外口）、県内７名（小野、青井、永野、安井、小田、青江）、の10人でした。チームの目標は「ジャパンオープン優勝」「岡山国体ベスト８」を掲げました。

新チーム結成後、２ヶ月でジャパンオープン中国ブロック予選会があり決勝戦では終了間際まで１点差で負けていましたが、同点に追いつき延長戦で勝ちました。そこから熱いHC岡山のジャパンオープンの戦いが始まりました。初参加の第７回静岡大会では少ないメンバーだったので足がつり、準々決勝の高知戦を延長戦で勝ち抜き、第３位に入ることができました。この時の高知チームには現メンバーの四宮が相手メンバーとして参加していました。また、全日本総合選手権にも参加することができ、１回戦を１点差で突破することができ、２回戦では実業団と対戦し悔しいながらも日本リーグの強さをまざまざと見せつけられ良い経験ができました。初年度にこのような結果が残せたのは、所キャプテンを中心にメンバーがよくまとまっていたことだと思います。

平成15年は岡山国体の強化として、週３回の練習会も行い、全国トップの大学に遠征合宿を行いながら、力をつけ第８回埼玉大会では準優勝することができました。平成16年の地元岡山大会では沢山の声援のもと念願の初優勝を飾ることができました。この時、HC岡山が最高に盛り上がるゲームができ思い出に残る大会でした。

平成17年は岡山国体の年で、日本リーグのチームに遠征合宿を行い、良い経験と勉強をさせてもらい、ジャパンオープン２連覇を果たしました。10月には岡山国体が開催されHC岡山中心の成年男子は大崎電気に１点差で負けましたが、５位の好成績を残しHC岡山結成時の夢をかなえることができました。この年も全日本総合に４回連続出場できましたが、国体終了時より仕事等の事情でチームを離れる選手が出て大差で負けてしまい悔しい思いをしました。

平成18年は林キャプテンのもと、目標はジャパンオープン３連覇を掲げましたが国体終了以降は練習回数、参加人数も減りなかなか思うように練習はできませんでした。しかし、ジャパンオープン直前からチームから離れていた小田が「好きなハンドボールを続けたい」と会社を辞めてチームに復帰してくれたことも、３連覇の大きな原動力につながったと思います。

これからは後進の指導にも力を入れ、岡山のレベルアップに貢献していきたいと考えています。また、「HC岡山に入ってハンドボールをやりたい！」と思えるような魅力あるチームにしていきたいと思います。来年は未到のＶ４にチャレンジします！

女子の部優勝チーム

ジャパンオープンハンドボールトーナメント3連覇

HC岡山（女子）監督　大塚 敏明


写真提供：スポーツイベント社

平成13年4月、「平成17年晴れの国岡山国体」に向けて成年女子強化の中心となる新チーム「OFC」を結成致しました。岡山国体に向けての監督選手養成計画においても、この年から県外からの補強選手と県内出身者の日本リーグ選手・関東学生1部や関西学生1部リーグから帰県する選手を中心にスタートする予定にしていました。

新チーム結成後すぐに第6回ジャパンオープンの出場権を獲得し、8月に高知で行われた本大会に参加することができました。一泊で帰る予定で毎朝チェックアウトして会場に行くもののまた帰って宿泊、初参加で嬉しい3位に入賞できたことが楽しい思い出として残っています。ちなみにこのときのメンバーで現在まで残っている選手は3名です。

平成14年4月、成年男子も強化の中心となる新チームを結成することとなり、岡山国体に向けての強化チームであることを広く県民の皆様に理解してもらえるために男女とも同じチーム名「HC岡山」といたしました。この年のジャパンオープンは早々に敗退いたしました。国体を控えた私たちにとってジャパンオープンに優勝することは、大変重要な意味を持っていました。また、全日本総合選手権に推薦していただき多くの経験を積ませていただける絶好の機会でもありました。

岡山国体に向けての練習会や遠征合宿など強化が進められ、平成15年度にはジャパンオープン2位、平成16年度には国体のリハーサル大会として行われた地元岡山では、ついに優勝を手にすることができました。平成17年度の大会では連覇を達成し、10月の国体本番に向けて良い状態で入ることができて、成年女子第3位の好成績を残すことができました。

国体以降は、大好きなハンドボールに楽しく関わり、子供たちに夢を与えてハンドボールを普及させるためにも県内最強のクラブチームとして定期的に練習を継続してきた結果、体力的には大変厳しいながらも大会3連覇を達成することができました。

岡山県の財産になるまでにチームを育てていただいた岡山県ハンドボール協会の皆様、岡山国体の関係者の皆様、選手を育てていただいた高校や大学の指導者の皆様に深く感謝いたします。


HC岡山2番 太田選手

写真提供：スポーツイベント社

全試合を女性レフェリーが管理した大会
（ジャパンオープン女子の部）

（財）日本ハンドボール協会審判部長
島田　房二

昨年度審判委員長を受けたとき、私自身の具体的な目標として審判員の技量の向上と共に女性審判の地位向上を考えていました。幸い第30回日本リーグのプレーオフでセルビア・モンテネグロの女性レフェリーの見事な試合コントロールを実際に見ることができ、日本で全試合女性レフェリーが管理する大会をする決心をしました。それには男女別会場で開催されるジャパンオープン女子の部が最適であると考え、秋田県協会の理解をいただき実現しました。

昨年度の女子の公認審判は全国で236名登録されておりますが、全国大会を運営できるA・B級に絞ると21名になってしまいます。女子の指導者数と比べてみると非常に少ないと感じています。その理由を考えてみますと、実際にブロック大会や全国大会に選出される人数が少なかったこと、例え全国大会に選出されてもトーナメントの上位戦を吹笛することが無かったことによって、意欲を持ち続けることが非常に困難であったと想像します。そこで、今まで何回か全国大会に出場経験のあるブロックにお願いし4ペアーのレフェリーを確保することができ、今回は東北（工藤・外舘）・関東（井口・村田）・東海（小林・門口）・九州（井料・貞島）各地区の女子トップレフェリーにお願いし、女子トーナメント全試合を吹笛してもらいました。

幸い秋田県の協力で委嘱期間を最初から決めることなく、上手なレフェリーを残していく方法がとれましたので、全レフェリーが緊張感あるレフェリングで今まで以上に真剣な吹笛になり、各ペアーが最高のパフォーマンスをしてくれました。順位をつけがたい状況でしたが井料・貞島ペアーが決勝の担当となり、全国大会で初めての決勝レフェリーの重責をこなしました。とりわけ女子だからという問題もなく、選手からは概ね好感触の言葉も聞けました。これからの課題も多く見つかりましたが、試合終了後の話し合いの中で、「全国大会に参加でき、決勝も吹笛できる可能性があるなら、もっと多くの女性レフェリーを育てられる」、「今度は決勝を吹笛できるように努力してくる」という積極的な意見が多くでました。来年度はジャパンオープンだけでなく他の全国大会にも枠を広げて女性レフェリーを登用したいと考えています。


写真提供：スポーツイベント社

一般的に女性レフェリーの良い点は、ルールに忠実であることがあげられます。プレーオフで感じた人がいると思いますが、ラフなプレーを許さない、ベンチのクレームを許さない等判定に従わない場合の処置もきちんとできることが挙げられます。反面悪い点はアドバンテージの運用の甘さ。これは今まで日本では、中学・高校の試合だけレフェリングをしている女性レフェリーが多いので、危険防止のため判定が早くなりがちであることがあります。各地域で置かれている女性レフェリーの立場が表されているのではないでしょうか。さらに良いポジショニングをするための走力不足。ハッキリしないジェスチャー等が挙げられます。これからは各ブロックで男子の試合や上位の試合、社会人にも積極的な女性レフェリーの登用をお願いし、ブロックの推薦枠に入れて頂けるようにお願い致します。

カナダで開催された女子ユースワールドカップでは6ペアーの中に2ペアーの女性レフェリーがノミネートされています。幸い女性審判登録のC・D級には20歳前後の若いレフェリーが数多く登録されています。各県・ブロックで女性レフェリーを積極的に吹笛してもらうことによって、日本も世界に遅れないような女性審判を育てられると思います。

「ハンドボール競技――アンチ・ドーピング規程」刊行のお知らせ

医事専門委員会　西山 逸成

日本ハンドボール界におけるアンチ・ドーピング活動としては1977年熊本男子世界選手権大会以降実施されていますが、2003年8月世界アンチ・ドーピング機構（WADA）の設定により国際ハンドボール連盟（IHF）、日本アンチ・ドーピング機構が相次いでドーピング・コントロール規程を策定・改定するようになりました。

日本ハンドボール協会においても「JHAアンチ・ドーピング規程」を改定（2006年3月）し、刊行・配布となりました。

編集の内容には、［Ⅰ］日本ハンドボール協会（JHA）アンチ・ドーピング規程（参照規程類及び付表）、［Ⅱ］アジアハンドボール連盟（AHF）アンチ・ドーピング規程及び［定義］で構成しました。

内容の主要構成点としましては、まず第一に世界アンチ・ドーピング規程が根底にありまして各国アンチ・ドーピング規程が各国共通の基本的手続き事項（ドーピング検査公式記録書や治療目的使用の適用措置に関する国際基準、禁止リストに関する国際基準、選手の居場所情報に関する報告手続等）の手続きの実施と併行した国際ハンドボール連盟（IHF）アンチ・ドーピング規則の準拠を考慮した内容であります。

大きな改正点の一つに、アンチ・ドーピングとしてのドーピング検査時の選手個人に対する罰則（禁止物質・禁止方法）では、1回目の違反（2年間の資格剥奪）、2回目の違反（一生涯にわたる資格剥奪）がありますが、例外的にはこれらの資格剥奪期間の免除又は軽減措置があります。

軽減措置の理由（IHF94条）には無過失・不注意が挙げられています。

また競技会外検査時の違反（IHF9.3）の資格剥奪期間は最低3ケ月（1回目違反）、2年間（2回目違反）となります。



競技会外検査時の違反（IHF2、3）とは、検査通知受領後の検体検査の拒否・回避や選手の居場所情報を提出しないことである。

また治療目的のために禁止物質・禁止方法の使用が許されています（IHF4）。国際大会の出場選手は参加21日（3週間）前までにIHF治療目的使用の適用措置委員会（TUEC）にTUEを申請しなければなりません。毎年世界アンチ・ドーピング機構（WADA）から競技会検査及び競技外検査の区分で禁止物質・方法が示されます。

禁止物質・禁止方法では、選手が日常的に高い頻度で病状処置に使用している場合、略式申請手続き（ATUE）が①吸入ベータ2作用剤（フォルモテロール・サルブタモール・サルメチール、モテプリン）及び②局所使用による糖質コルチコイドがあるので誤記のないよう申請をされたい。

今回の改正で大きく変わった点は、ドーピング検査の対象となる選手は抽出のみでなくレッドカードの判定を受けた選手は、ドーピング検査所でチームスタッフとともに試合終了まで待機しなければならず、その試合のレフェリーや大会役員の意見によってDco（ドーピング検査担当主催者）から抽出選手以外もドーピング検査対象選手に指名されることになります。

（次号は違反例）

三協立山アルミ

自然換気システム「NAV-Window-21」は、各地の体育館・大空間施設で採用されています。

学校法人東北学院中学・高等学校

日本体育大学健志台キャンパス体操競技館

東京外国語大学屋内運動場



建物を呼吸させよう

風の道をつくり、自然換気をする建築は、世界的に見て、確かなひとつの流れとなっています。
NAVウィンドウ21は、「風」という自然エネルギーを利用した、爽やかで効率のよい自然換気を実現するシステムです。

自然換気システム商品シリーズ

NAV-Window-21

〈スウィンドウ／ウィンコン／キャブコン〉

「平成16年度地球温暖化防止活動環境大臣賞 受賞」について

当社が実施してきた10年間に亘る自然換気システムの開発への評価、また製造販売活動を通じ自然換気システムを採用いただいたビル建築が200件を超え、年間で13,000tのCO_2排出削減（森林面積で5,600ha≒皇居面積の約60倍相当）に貢献している点が評価されました。

三協立山アルミ株式会社 | 環境商品部 〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1 住友中野坂上ビル17F
TEL (03) 5348-0367 http://www.buildingsash.net

平成18年3月19日、渋谷：ホテルサーブ会議室において、第4回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。過日のハンドボール研究会の発表につきまして、本誌で連載報告する運びとなりました。今月は中京大学の安達隆博さんの発表内容「NTS優秀選手の新体力テストによる結果と評価」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で順次報告いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

NTS優秀選手の新体力テストによる結果と評価

安達隆博（中京大学） 斉藤慎太郎（大同工業大学）
白井克佳（国立スポーツ科学センター） 栗山雅倫（東海大学） 田中　守（福岡大学）

キーワード：ハンドボール、ＮＴＳ、体力テスト

Ⅰ．目的

日本ハンドボール協会は、2000年よりナショナルトレーニングシステム（NTS）をスタートさせ、その中で各種体力測定を行ってきた。NTSでは、測定時間・機器・検者被検者の負担などからフィールドで簡便に行うことのできる項目として身長・体重・30m走・立5段跳び・長座投げ・背筋力・握力が測定されており、その結果から特にジュニア期（高校生期）における筋力・筋パワーの向上を目的としたトレーニングの重要性について提言されている。今回はその内容を踏まえ、さらにハンドボールの競技特性を考慮した専門的体力の評価を2005年度NTS優秀者を対象に行うことを目的とした。

Ⅱ．方法

１．対象者

対象者は、2005年度NTSセンタートレーニングに参加した高校生（U18）男子30名・高校生女子25名、中学生（U15）男子30名・女子31名とした。

２．測定項目

・形態　　　身長・体重・指高・指極
・無気的パワー
　走パワー：30m直線走、30m方向変換走
　跳パワー：立ち3段跳び
　投パワー：長座ハンドボール投げ
・筋力　　　握力
　　　　　　メディシンボール後方投げ（男子4kg・女子3kg）

Ⅲ．結果と考察

１．形態

表1に示した身長・体重の結果は、以前に報告されたNTS優秀選手の平均値（U18男子…179cm・68.9kg、U15男子…175.5cm・62.6kg、U18女子…167.1cm・57kg、U15女子…164.1cm・53.2kg）からみて、形態的に恵まれた選手達がNTSに選抜されていることを示しているものと思われる。また男子においては、Ioan Kunst氏提唱のジュニア選抜の身体的モデルに迫っている点は注目すべきである。

２．無気的パワー

無気的パワーの測定には、走パワーとして30m走（20m地点も計測）と30m方向変換走を実施した。U18、U15の男女ともに20m地点での測定値はU18よりもU15の方が有意に速く30mでは有意な差がないという結果を得た。ハンドボールでは30mよりも20mというさらに短い距離におけるスプリント能力が無気的走パワーの評価に重要である可能性が示唆された。30m方向変換走は男女ともにU18の方が有意に速か

表 1　NTS 優秀選手の体力測定結果（形態）

性	年代	人数		身長 (cm)	体重 (kg)	指高 (cm)	指極 (cm)
男子	U18	30	平均値	181.6*	78.9***	231.7	184.1
			標準偏差	5.3	9.7	8.3	6.9
			最高値	189.9	99.1	242.0	196.0
	U15	30	平均値	178.4	71.0	228.9	182.7
			標準偏差	4.7	5.5	6.2	4.9
			最高値	187.0	89.3	240.0	189.0
女子	U18	25	平均値	168.3*	64.2*	214.5	170.7***
			標準偏差	4.8	4.4	7.3	4.0
			最高値	177.0	72.6	228.0	180.0
	U15	31	平均値	165.7	60.1	212.3	166.7
			標準偏差	4.0	4.9	5.1	5.2
			最高値	174.2	72.0	225.0	177.0

U18 vs U15　*P<0.05　**P<0.01　***P<0.001



表 2　NTS 優秀選手の体力測定結果（無気的パワー・筋力）

性	年代	人数		20m 走 (s)	30m 走 (s)	方向変換走 (s)	立三段跳び (m)	長座投げ (m)	握力 (kg)	メディシンボール投げ (m)
男子	U18	30	平均値	3.01***	4.38	6.98*	7.5***	27.5***	49.8***	9.2***
			標準偏差	0.10	0.15	0.25	0.6	3.0	5.9	1.4
			最高値	2.82	4.05	6.43	8.5	35.6	59.9	12.4
	U15	30	平均値	3.18	4.46	7.18	7.1	25.1	44.0	7.4
			標準偏差	0.11	0.16	0.33	0.4	3.0	5.4	1.0
			最高値	2.92	4.13	6.26	8.1	31.2	58.3	9.2
女子	U18	25	平均値	3.38***	4.92	7.43***	6.2***	19.2***	30.7**	5.5***
			標準偏差	0.12	0.18	0.31	0.4	1.7	3.2	6.1
			最高値	3.08	4.48	6.91	7.1	22.8	39.3	6.9
	U15	31	平均値	3.51	4.95	7.76	5.9	16.3	28.2	4.7
			標準偏差	0.12	0.18	0.30	0.3	2.0	3.1	4.9
			最高値	3.28	4.67	7.11	6.6	20.8	34.6	5.5

U18 vs U15　*P<0.05　**P<0.01　***P<0.001

った。跳パワーとして立ち 3 段跳びを実施した。男女ともに U15 よりも U18 の方が有意に高い値を示した。男子 U18 においては、以前に測定した U23 の結果（7.6 ± 0.6m）と差が認められず、跳パワーに優れた選手が選抜されたことが伺われる。投パワーは長座投げを実施した。跳パワー同様、男女ともに U15 よりも U18 の方が有意に高い値を示した。特に男子 U18 においては U23（27.1 ± 1.3m）および 1997 年全日本男子（28.01 ± 2.9m）と差が認められなかった。このことから U18 は投パワーに特に優れていると評価できる。

3．筋力

筋力の測定は握力とメディシンボール後方投げを行った。これらの測定項目は全身の筋力を反映するものである。男女ともに U15 よりも U18 の方が有意に高い結果が示された。メディシンボール投げについては、シュートスピードとの関連が高いことから測定には意義ある項目と考えられるため、今後のデータの蓄積が必要であると思われる。

Ⅳ. まとめと今後の課題

2005 年度 NTS 優秀選手の体力的特徴として、形態的に大きいこと、跳パワーおよび投パワーに優れていることが示された。今後は、ハンドボールの専門的体力データの蓄積とそれに基づいた評価基準の作成および今回測定項目にはなかった有気的パワー、柔軟性の測定・評価が必要であると考えられる。

スコアルーム① 第33回全国高等専門学校選手権大会

開催期日：2006年8月5日(土)～6日(日)
会　　場：兵庫県神戸市・神戸グリーンアリーナ

▼予選リーグ第1ブロック

豊田高専　31（19－8、12－9）17　富山高専
豊田高専　28（12－8、16－5）13　松江高専
富山高専　26（14－13、12－13）26　松江高専

［順位］
1位　豊田高専　2勝
2位　富山高専　1分1敗
3位　富山高専　1分1敗

▼予選リーグ第2ブロック

高松高専　25（13－10、12－7）17　明石高専
高松高専　28（14－11、14－12）23　東京高専
明石高専　24（11－12、13－9）21　東京高専

［順位］
1位　高松高専　2勝
2位　明石高専　1勝1敗
3位　東京高専　2敗

▼予選リーグ第3ブロック

米子高専　26（10－8、16－9）17　一関高専
米子高専　46（24－4、22－4）8　和歌山高専
一関高専　37（16－4、21－10）14　和歌山高専

［順位］
1位　米子高専　2勝
2位　一関高専　1勝1敗
3位　和歌山高専　2敗

▼予選リーグ第4ブロック

大阪府立高専　27（14－9、13－6）15　八代高専
大阪府立高専　29（13－7、16－7）14　函館高専
八代高専　30（14－8、16－11）19　函館高専

［順位］
1位　大阪府立高専　2勝
2位　八代高専　1勝1敗
3位　函館高専　2敗

▼準決勝

豊田高専　31（10－6、21－7）13　高松高専
米子高専　19（7－4、7－10）16　大阪府立高専
（3－0延長2－2）

▼決勝

米子高専　21（13－7、8－13）20　豊田高専
※5年ぶり2回目の優勝

スコアルーム② 第11回ジャパンオープントーナメント

開催期日：2006年8月9日(水)～12日(土)＊女子は11日まで
会　　場：秋田県・湯沢市総合体育館ほか

【男子】

▼1回戦

ＨＣ岡山　39（19－9、20－10）19　各務原市ハンドボールクラブキャロット
埼玉教員クラブ　41（16－12、25－12）24　宮城クラブ
チーム群馬　37（17－18、13－12）36　向陵クラブ
（1－2延長3－2）（37mTC　2）
スワロークラブ　25（9－11、9－7）22　ＭＡＸ
（3－4延長4－0）
徳山クラブ　29（14－10、15－10）20　Ｔｅａｍ京都
白石クラブ　29（16－11、13－13）24　ＦＳＴ
香川クラブ　32（15－8、17－12）20　福島クラブ
ボンチフェローズ　29（12－10、17－13）23　ＨＣ新潟
南海建設クラブ　38（22－11、16－9）20　今治ハンドボールクラブ
ＦＯＧ　39（18－5、21－9）14　静岡教員団
ＨＣ秋田　41（20－10、21－8）18　日川クラブ
エルムクラブ　36（15－9、21－10）19　ＦＡＬＣＯＭ
つくば学園ハンドボールクラブ　30（13－13、12－12）29　氷見クラブ
（1－0延長4－4）
チーム楽南　33（17－7、16－10）17　生駒クラブ
日新製鋼　33（16－13、17－15）28　不来方クラブ
大同クラブ　32（15－12、17－8）20　宮崎フェニックス

▼2回戦

ＨＣ岡山　35（19－8、16－14）22　埼玉教員クラブ
スワロークラブ　33（19－10、14－12）22　チーム群馬
徳山クラブ　31（14－12、17－11）23　白石クラブ
香川クラブ　29（11－13、18－13）26　ボンチフェローズ
南海建設クラブ　27（14－13、13－13）26　FOG
ＨＣ秋田　35（15－13、20－8）21　エルムクラブ
つくば学園ハンドボールクラブ　43（24－10、19－9）19　チーム楽南
大同クラブ　25（13－5、12－10）15　日新製鋼

▼準々決勝

ＨＣ岡山　29（15－9、14－10）19　スワロークラブ
香川クラブ　27（10－10、17－9）19　徳山クラブ
ＨＣ秋田　31（18－11、13－16）27　南海建設クラブ
大同クラブ　23（11－8、12－9）17　つくば学園ハンドボールクラブ

▼準決勝

ＨＣ岡山　30（17－7、13－9）16　香川クラブ
大同クラブ　32（17－9、15－11）20　ＨＣ秋田

▼3位決定戦

ＨＣ秋田　26（14－10、12－15）25　香川クラブ

▼決勝

ＨＣ岡山　28（15－11、13－12）23　大同クラブ

▼最終順位

優　勝　ＨＣ岡山（岡山県）※3年連続3回目の優勝
準優勝　大同クラブ（愛知県）
3　位　ＨＣ秋田（秋田県）
4　位　香川クラブ（香川県）

【女子】

▼1回戦

ＨＣ岡山　31（13－10、18－9）19　Go!!Go!!1
JJ・GANG　27（14－14、13－9）23　レキオクラブ
かながわガビアーノ　30（15－6、15－9）15　白梅三英会

香川銀行T.H.	41（20－3、21－8）11	ＨＣ高山
HC東京VENUS	31（12－12、19－12）24	ＭＭＣ
大農ＯＧ	38（20－5、18－7）12	函館ホッパーズ
凰見鶏クラブ	31（17－6、14－7）13	野辺地クラブ
シャトレーゼハンドボールクラブ	28（13－8、15－12）20	熊本クラブ

▼準々決勝

ＨＣ岡山	31（15－9、16－9）18	JJ・GANG
香川銀行T.H.	24（13－7、11－13）20	神奈川ガビアーノ
大農ＯＧ	31（17－10、14－17）27	ＨＣ東京VENUS
シャトレーゼハンドボールクラブ	23（11－11、12－10）21	凰見鶏クラブ

▼準決勝

ＨＣ岡山	24（15－11、9－12）23	香川銀行T.H.
シャトレーゼハンドボールクラブ	32（18－11、14－17）28	大農OG

▼３位決定戦

香川銀行T.H.	37（19－9、18－9）18	大農OG

▼決勝

ＨＣ岡山	34（13－15、21－7）22	シャトレーゼハンドボールクラブ

▼最終順位

優　勝　ＨＣ岡山（岡山県）※3年連続3回目の優勝
準優勝　シャトレーゼハンドボールクラブ（山梨県）
3　位　香川銀行T.H.（香川県）
4　位　大農OG（開催地）

スコアールーム③　第35回全国中学校大会

開催期日：2006年8月18日（金）～20日（日）
会　　場：香川県・高松市総合体育館ほか

【男子】

▼1回戦

汐　路（愛知県）	30（15－6、15－9）15	舞　鶴（鹿児島県）
桜　町（開催地）	27（13－9、14－13）22	総社西（岡山県）
光　陽（福井県）	34（16－11、18－9）20	大体大附（大阪府）
高　砂（兵庫県）	23（14－7、9－13）20	山梨南（山梨県）

▼2回戦

氷見北部（富山県）	32（14－14、18－13）27	東久留米西（東京都）
けやき台（茨城県）	30（16－15、14－12）27	玉　名（熊本県）
神　森（沖縄県）	50（26－10、24－13）23	岩　国（山口県）
朝　明（三重県）	35（14－9、21－14）23	香川第一（香川県）
豊中十五（大阪府）	22（9－7、13－10）17	汐　路（愛知県）
桜　町（開催地）	27（14－6、13－12）18	月　寒（北海道）
滝ノ水（愛知県）	25（11－9、14－14）23	光　陽（福井県）
松　園（岩手県）	43（19－15、24－20）35	高　砂（兵庫県）

▼3回戦

氷見北部	34（17－12、17－19）31	豊中十五
けやき台	29（12－9、17－9）18	桜　町
神　森	36（18－8、18－16）24	滝ノ水
松　園	33（18－13、15－17）30	朝　明

▼準決勝

氷見北部	28（14－11、14－9）20	けやき台
神　森	37（13－11、24－12）23	松　園

▼決勝

神　森	31（12－14、19－14）28	氷見北部

【女子】

▼1回戦

上　（奈良県）	22（12－6、10－14）20	町田南（東京都）
氷見十三（富山県）	27（10－13、17－8）21	吉川南（埼玉県）
岩　国（山口県）	16（7－2、9－7）9	日　枝（岐阜県）
延　岡（宮崎県）	22（8－7、14－6）13	南八下（大阪府）

▼2回戦

下津井（岡山県）	19（11－7、8－6）13	東　陽（大分県）
山　田（開催地）	28（14－5、14－11）16	藤　野（北海道）
鶴　城（熊本県）	17（9－5、8－8）13	芦　城（石川県）
香　東（香川県）	22（12－6、10－9）15	中　山（岐阜県）
御幸山（愛知県）	19（8－8、11－3）11	上　（奈良県）
培　良（京都府）	26（15－8、11－8）16	氷見十三（富山県）
東久留米西（東京都）	17（7－7、10－8）15	岩　国（山口県）
石　川（福島県）	21（7－7、11－11）20 （3 延長戦 2）	延　岡（宮崎県）

▼3回戦

下津井	20（7－8、13－10）18	御幸山
培　良	25（11－6、14－10）16	山　田
東久留米西	27（11－6、16－8）14	鶴　城
香　東	21（10－1、11－4）5	石　川

▼準決勝

下津井	23（9－4、14－7）11	培　良
東久留米西	23（11－9、12－9）18	香　東

▼決勝

東久留米西	24（11－13、13－10）23	下津井

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」9月入会・継続会員

【福島】舎利弗　学　【茨城】中馬睦子、高栖侯坦　【東京】平賀とみ子、後藤恵理子、松井郁雄　【富山】西坂真理子、越前明子　【石川】田子晴美、田子ちひろ　【静岡】坂東廣一　【愛知】田中基明、西　みどり、小林　勇、山本智子、岡田洋典、牧野千別　【三重】原　美佐子　【岐阜】尾崎嘉郎、尾崎玲子、米谷　渉、小池竜平　【大阪】繁田順子、塩川正十郎　【島根】森江和吉　【岡山】竹内一平　【広島】木下しのぶ、入本富男

【11月の行事予定】

【会　議】……………………………………………

11月25日(土)
常任理事会（東　京）

11月25日(土)
第２回理事会（東　京）

【大　会】……………………………………………

11月16日(木)～20日(月)
高松宮杯
男子49回・女子42回全日本学生選手権大会
（愛知県・名古屋市）

ジャパンカップ2006開催

【日　程】
2006年11月10日(金)～12日(日)

【会　場】
大阪市立住吉スポーツセンター

【出場チーム】
（男子・女子）日本・中国・韓国・日本リーグ選抜

【お問合せ】
（大阪ハンドボール協会）06-6585-1705
（日本ハンドボール協会）03-3481-2361

Japan League Allstar Team

HAND BALL CONTENTS Nov.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

asics

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT

NEW THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
- カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0～29.0cm
- 2月上旬新発売



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S

NEW THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
- カラー：2300 レッド×パールホワイト
  5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0～29.0cm
- 2月上旬新発売



JAPAN
JOCオフィシャル
スポーツ用品パートナー

株式会社アシックス



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四七五号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十八年十月二十六日印刷 平成十八年十一月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一 電話 代表〇三―三四八一―二三六一 振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円